




© 2026 Yamaha Corporation
 2026年1月発行 IPES-A0
 Published 01/2026

EAD50
 ELECTRONIC ACOUSTIC DRUM MODULE
 クイックガイド

VHS7110

EAD50 とは

エレクトリックアコースティックドラムモジュール、EAD50をお買い上げいただき、ありがとうございます。EAD50は、1つのドラムセンサーユニットでドラムキット全体を集音し、マイクから入力されるアコースティックドラムの演奏音と、演奏時にトリガー端子から入力される信号により鳴る電子ドラム音の両方に対して、エフェクトや音量バランスなどのミキシングをすることで、本格的なドラムサウンドを作り上げていく製品です。本製品に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

- 取扱説明書について**
- 製品付属マニュアル**
- クイックガイド（本紙）：本製品の取り付け方や音を出すまでの準備、各部の役割について説明しています。
- ウェブマニュアル**
- ユーザーガイド：すべての機能について説明しています。
 データリスト：本機に搭載されたシーン名やエフェクト名などの一覧と、MIDIに関する資料を掲載しています。
 スマートデバイス接続マニュアル：本機を iPhone や Android などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。
- これらのマニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。
 以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスに「EAD50」を入力して「検索」をクリックします。
 ヤマハ ダウンロード <https://download.yamaha.com/jp/>

■ 関連するアプリについて

<https://jp.yamaha.com/products/apps/index.html>

EAD Touch

EAD Touch は、EAD50 と組み合わせて使用するアプリです。音色エディット、マイクやトリガーのセッティング、入出力のルーティングなど、EAD50 のもつ多彩な機能を、グラフィカルな画面構成で直感的に操作することができます。ライブ、レコーディング、配信など、EAD50 を活用するドラマーを強力にサポートします。

Rec'n'Share

「Rec'n'Share」では、お気に入りの楽曲の演奏、録音、演奏動画の撮影、編集からアップロードまで簡単に行うことができます。練習、録音、演奏活動を強力にサポートします。

- 付属品（お確かめください）**
- EAD50 クイックガイド（本書）× 1
 - 電源アダプター × 1
 - モジュールホルダー × 1
 - モジュールホルダー用蝶ボルト × 4
 - 標準ステレオフォーンケーブル（4 m）× 1（以下フォーンケーブルとします）
 - 3ピン XLR ケーブル（3.1 m）× 2
 - ケーブルバンド × 3
 - Cubase AI ダウンロードインフォメーション × 1
 - セーフティガイド（保証書含む）× 1

DSU50

- DSU50 本体 × 1
- DSU50 取扱説明書 × 1
- マイクフォン用ステレオ 5 ピン XLR ケーブル（1.4 m、ケーブルバンド付）× 1 本（以下ステレオ XLR ケーブルとします）
- クッションシール × 2

- 使用上のご注意**
- 製品の取り扱いに関する注意**
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。スマートフォン、タブレット端末などスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの電源モードオンにしてお使いいただくことをおすすめします。楽器と無線で接続するときは、スマートデバイスの Bluetooth® の設定がオンになっていることを確認してください。
 - XLR ケーブルは、3メートル未満のものをご使用ください。
 - 直射日光のある場所（中車の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなること、逆に温度が極端に低いこと、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のケースが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
 - 本体上とケーブル製、プラスチック製品、ゴム製などを書かないでください。本体のケースや鍵盤が変色・変質する原因になります。
 - 使用後は、必ず電源を切りましょう。(H) (スタンバイ/オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 製品のお手入れに関する注意**
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ペンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色・変質する原因になりますので、使用しないでください。
- データの保存に関する注意**
- 本製品の一部の設定は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存された設定は故障や誤操作のために失われることがあります。万一の事故に備えて、大切なデータは USB フラッシュメモリー / SD カード / コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- Bluetooth**
- MIDI は、一般社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
 - USB Type-C™ および USB-C™ は USB Implementers Forum の商標です。
 - その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- 廃棄に関するお知らせ**
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご確認くださいようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

- 記号表示について**
- この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。
-  注意喚起を示す記号
 -  行為を禁止する記号
 -  行為を示す記号

■ 「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を区分して掲載しています。

- 警告** 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
- 注意** 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

警告

- 電源**
-  **禁止** 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをせない。
 -  **禁止** 雷が鳴っているときは、本製品や電源プラグに触らない。
 -  **禁止** 感電の原因になります。
 -  **必ず実行** 電源は必ず交流100Vを使用する。
 -  **必ず実行** エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。
 -  **必ず実行** 電源コード、電源アダプターは、必ず付属のものを使用する。
 -  **必ず実行** 火災、やけど、または故障の原因になります。
- 付属の電源コード、電源アダプターをほかの機器に使用しない。**
-  **禁止** 感電の原因になります。火災、やけど、または故障の原因になります。
- 電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。**
-  **必ず実行** ショートして火災や感電の原因になります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。**
-  **必ず実行** 差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。**
-  **必ず実行** 万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないぎり電源から完全に遮断されません。
- たこ足配線をしな。**
-  **禁止** 音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりして火災の原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**
-  **必ず実行** 電源コードが破損して、感電や火災の原因になります。
- 長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**
-  **必ず実行** 火災や故障の原因になります。

分解禁止

 **禁止** 本製品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。

水に注意

 **禁止** 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。

本製品の上には花箱や薬品など液体の入ったものを置かない。

 **禁止** 電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。

 **禁止** めれた手でケーブルを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意

 **禁止** 本製品の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

ワイヤレス機器

 **禁止** 医療機器の近くなど、電波の使用が制限された区域で使用しない。

 **禁止** 心臓ペースメーカーや除動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

本製品が発生する電波により、動作に影響があるおそれがあります。

接続

 **必ず実行** 接続する機器のマニュアルを必ず読み、記載されている内容に従う。

従わない場合、火災、発熱、破裂、故障の原因になる可能性があります。

異常に気づいたら

 **必ず実行** 下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグが破損した場合
- 製品から異様なにおいや煙が出た場合
- 製品の内部に水や異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

注意

 **注意**

組み立て

 **必ず実行** 本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。また、定期的にネジやボルトを締め直す。

破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置

 **禁止** 不安定な場所や振動の多い場所に置かない。

本製品が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。

本製品を移動する前に、必ずすべての接続ケーブルを外す。

 **必ず実行** ケーブルをいたたり、お客様やほかの方々か転倒したりするおそれがあります。

スタンドに設置する際は付属のモジュールホルダーを付属のネジで取り付けて使用する。

 **必ず実行** 本製品が転倒し破損したり、お客様やほかの方々かがををする原因になります。

接続

 **必ず実行** ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切ってから行う。また、電源をいれり切ったりする前に、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にする。

 **必ず実行** 聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。

 **必ず実行** 演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

 **必ず実行** 聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

- 取り扱い**
-  **禁止** 本製品の開口部やパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
- 火災、感電、故障や動作不良の原因になります。
-  **禁止** 本体の上のつりり重いものをせたりしない。
- また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
-  **禁止** 本体が破損したり、お客様やほかの方々かがをしたりする原因になります。
-  **禁止** 小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。
- お子様が誤って飲み込むおそれがあります。
-  **禁止** 本製品を子供の手の届くところに置かない。
- 本製品は子供が使う可能性のある場所での使用には適していません。

大きな音量で長時間使用しない。

 **禁止** 聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。

本製品のお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

 **必ず実行** 感電の原因になります。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

機種名 (品番)、製造番号 (シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については右の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。	機種名	製造番号
--	-----	------

接続ガイド

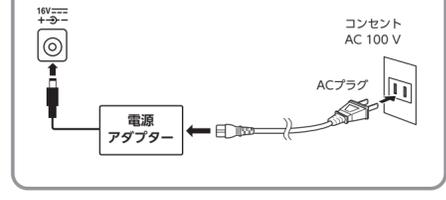
■ 電源アダプターを接続する

1 DC IN端子に電源アダプターを接続します。

- 警告**
- 電源アダプターは必ず付属のものをお使いください。

2 電源アダプターのコードをコードフックに巻きつけて固定します。

3 電源アダプターのACプラグを家庭用コンセントに挿し込みます。



■ センサーユニット (DSU50) を設置する

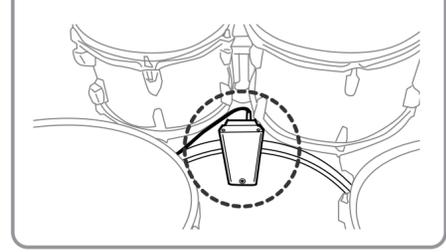
バスドラムのフープ上部にセンサーユニットを取り付けます。

ご注意

- センサーユニットやプラグがタムなどに当たらないように、位置を調整してください。

NOTE

- 詳しい取り付け方は付属のDSU50取扱説明書をご覧ください。



■ ヘッドホンを接続する

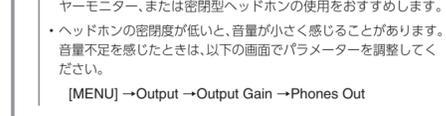
ヘッドホンを[PHONES]端子に接続します。

ご注意

- 端子は2種類あります。ご使用のヘッドホンのプラグ形状に合わせてどちらかの端子をご使用ください。2つの端子を同時に使用すると、それぞれの出力が小さくなる場合があります。

NOTE

- EADの音を聞き取りやすくするため、外部音を遮断できるイヤーマニトラー、または密閉型ヘッドホンの使用をおすすめします。
- ヘッドホンの密閉度が低いと、音量が小さく感じることがあります。音量不足を感じたときは、以下の画面でパラメーターを調整してください。



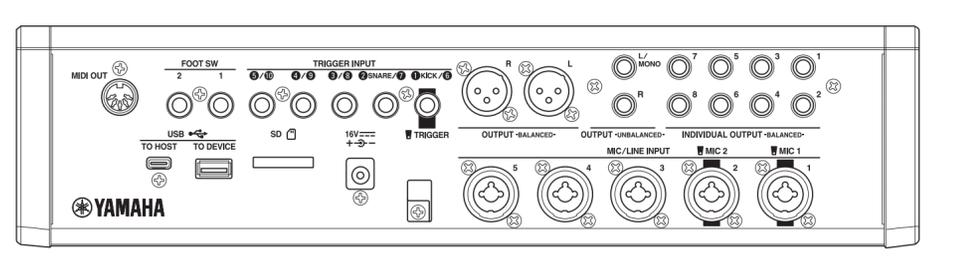
[MENU] → Output → Output Gain → Phones Out

■ PA システムに接続する

[OUTPUT-BALANCED]端子、または[OUTPUT-UNBALANCED]端子をスタジオやライブハウスのPAシステムに接続します。

ご注意

- 接続にはそれぞれの機器の端子形状に適合したプラグを持つケーブルをお使いください。

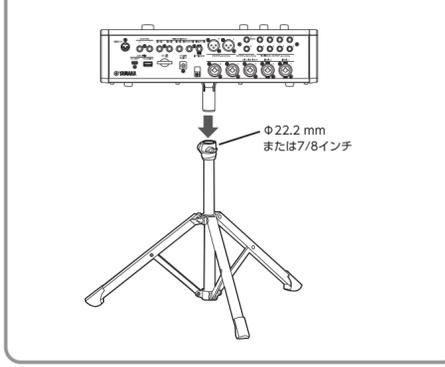
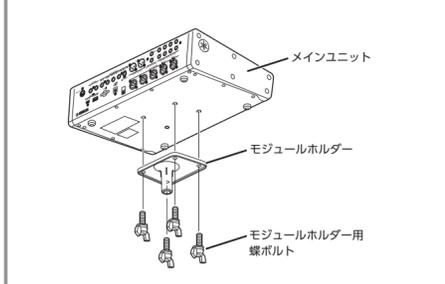


■ メインユニットを設置する

メインユニットは台の上などに置か、モジュールホルダーを使ってスタンドに取り付けて設置します。

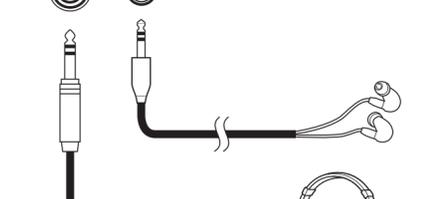
NOTE

- モジュールホルダーは、標準ドラムハードウェアの径(Φ22.2 mm、または7/8インチ)に対応しています。



■ ケーブルを固定する

接続ケーブルは、ステレオXLRケーブルに巻き付いているケーブルバンドを使ってセンサーユニットの近くに固定します。

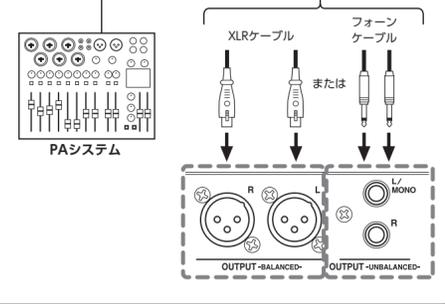


■ 携帯用音楽プレーヤーを接続する

スマートフォンや携帯用音楽プレーヤーを、背面の[USB TO HOST]端子(USB Type-C™)、または前面の[AUX IN]端子へ接続します。

NOTE

- [USB TO HOST]端子への接続方法は、スマートデバイス接続マニュアルでご確認ください。
- Bluetoothでの接続方法は、本紙の裏面に記載されています。



各部の役割

■ モードセレクトボタン

- SCENE** シーンをワンタッチで呼び出すモード
- MIC/TRIG** マイク音やトリガー音の設定を行うモード
- CLICK** クリック(メトロノーム)の再生や関連設定を行うモード
- RECORDER** 録音や再生(Recorder)、ループ演奏(Looper)、サンプル音の取り込み(Sampling)を行うモード
※[RECORDER]ボタンを繰り返し押しすることで切り替え可能
- LIVE SET** ライブ演奏時にシーンを並べてライブセットを作るモード
- MENU** 本体の詳細設定を行うモード

■ 画面操作ボタン

[F]ボタン(F1～F3のボタン)と[Alt]ボタンを使って、画面下部に表示される機能を実行します。

機能の操作にF1～F3ボタンだけでは足りない場合、[Alt]ボタンを押すと[F]ボタンに割り当てられる操作が切り替わります。

NOTE

- 左の絵のF1～F3とAltの表記は説明のためのものです。実際のボタンにボタン名表記はありません。

■ LED ロータリーフェーダー

フェーダーモードセレクトボタン

チャンネルインジケータ

チャンネル オン/オフボタン

フェーダーファンクションセレクトノブ

LED ロータリーフェーダー

- MIXER
- PAN
- EQ
- COMP
- EFFECT
- OTHERS

フェーダーファンクションセレクトノブと5本のフェーダーを使い、[MIC]モードではマイク入力、[TRIG]モードではトリガー入力、[CUSTOM]モードではEQやクリックのパラメータを直感的に調節できます。

• フェーダーモードセレクトボタン

- [MIC]モード：マイク入力の音量、パン、EQ、コンプ、エフェクトなどを調節
- [TRIG]モード：トリガー入力の音量、パン、EQ、コンプ、エフェクトを調節
- [CUSTOM]モード：EQやクリック音の各種設定を調節

• チャンネル オン/オフボタン

マイクやトリガーの各チャンネルのオン/オフを切り替えます。ペアリング中のチャンネルは、どちらのボタンを押しても連動してオン/オフが切り替わります。

• チャンネルインジケータ

様々な光り方で、ペアリングしているチャンネルを示します。例えば[MIC]モードではペアリングしたチャンネル同士が同じ色で光ります。[TRIG]モードでは各チャンネルのペアリングの有無を青や黄色に光って示します。詳しくはユーザーガイドをご覧ください。

ペアリングされていないチャンネルも、暗いステージ上などでパネルの視認性を確保するため、常に仄かに点灯しています。

機能の追加や操作性向上のため、工場出荷時のファームウェアを予告なく更新することがあります。最新のファームウェアおよび対応するマニュアルは、以下のウェブサイトからダウンロードいただけます。サポート・お問い合わせ：<https://jp.yamaha.com/support> なお、本機のファームウェアバージョンは Menu → Version で確認いただけます。

クイックガイド

■ 電源を入れる

- [OUTPUT]スライダーと[PHONES]スライダーを下げて、メインユニットの音量を最小にします。
- [心](スタンバイ/オン)スイッチを押します。
液晶ディスプレイにオープニング画面が表示された後、シーン画面が表示されます。



■ 電源を切る

- PAシステムに接続している場合：外部スピーカーの電源を切ります。
- [OUTPUT]スライダーと[PHONES]スライダーを下げて、メインユニットの音量を最小にします。
- [心](スタンバイ/オン)スイッチを長押しします。
液晶ディスプレイやランプが消灯し、スイッチを切った状態(スタンバイ)になります。

オートパワーオフ(自動電源オフ)

本製品では、一定時間操作しなかった場合、自動的に電源がオフになります。これを「オートパワーオフ」といい、工場出荷時は15分に設定されています。オートパワーオフで電源が切れた場合、保存(ストア)していないデータ(シーン、ライブセット、内部に録音されたオーディオ)は消去されます。電源が切れる前に必ず保存してください。オートパワーオフの設定については、ユーザーガイドをご覧ください。

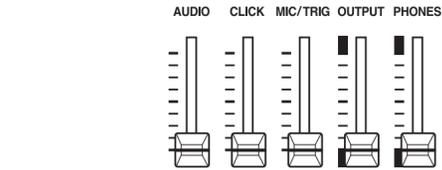
■ スライダーで各音量を調節する

外部から入力された音楽に合わせたり、クリックを鳴らしながら演奏したりする際に、それぞれの音量を調節します。またPA機器などへの出力や、ヘッドホンの音量を調節します。

- AUDIO**[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、Bluetoothからの入力と、本機に録音したオーディオの再生音
- CLICK**クリック(メトロノーム)
- MIC/TRIG** ... マイク音とトリガー音(自分の演奏)
- OUTPUT**OUTPUT-BALANCED、OUTPUT-UNBALANCED端子の音
- PHONES**ヘッドフォン端子の音

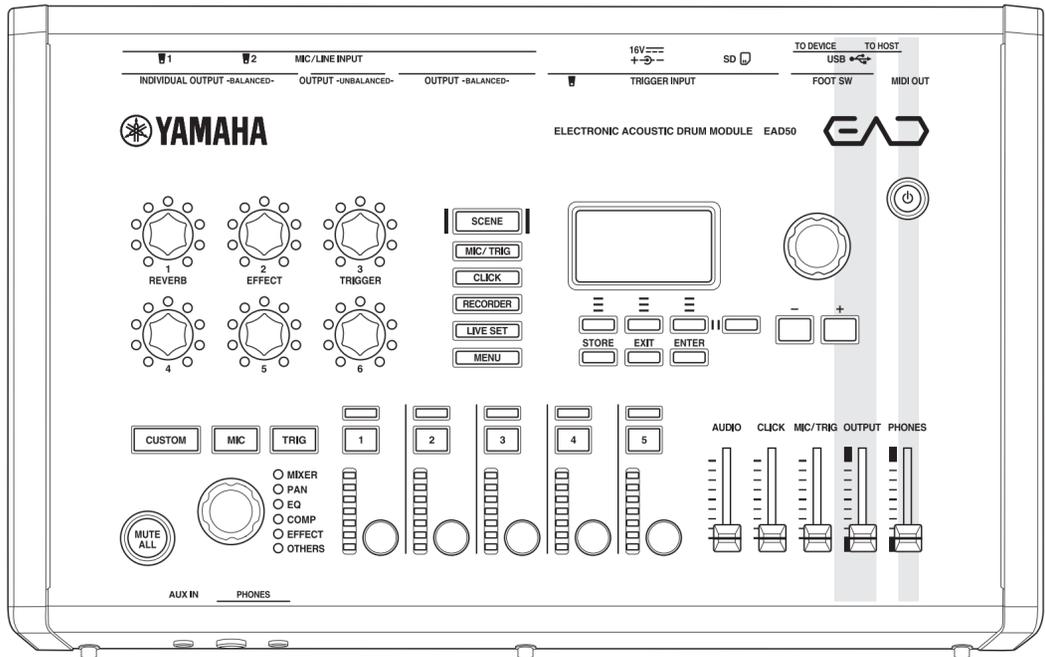
NOTE

- マイク音：マイクから入力されるアコースティックドラムの演奏音
- トリガー音：演奏時に、トリガー端子から入力される信号により鳴る電子ドラム音



NOTE

- [MUTE ALL]ボタンを押すと、ファンタム電源の供給が止まり、すべての音の出力が止まります。予期しないハウリングなどが起こった際に消音するのに便利です。



■ Bluetooth 対応機器のオーディオデータを本機で鳴らす

Bluetoothに対応したスマートフォンや携帯音楽プレーヤーと接続して、再生するオーディオデータを本機に接続したヘッドホンやスピーカーから鳴らせます。入力されたオーディオデータは録音することもできます。

• Bluetooth対応機器とペアリングする

本機とBluetooth機器を初めて接続する場合、両者をペアリングする必要があります。一度ペアリングした機器は、再度ペアリングの必要はありません。

- [MENU] ボタンを長押しします。画面がペアリング特機状態になります。ペアリングを中止するには[CANCEL]の下のボタン(F3)を押します。
- Bluetooth対応機器のBluetooth機能をオンにして、接続リストから本機のモデル名[EAD50 Audio(xxxxxx)]を選びます。
Bluetooth対応機器の設定は、5分以内に行ってください。5分を経過すると、ペアリングモードが自動的に終了します。パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。ペアリングが完了すると、画面右上に (Bluetoothマーク)が表示されます。
- Bluetooth対応機器でオーディオデータを再生し、本機に接続したヘッドホンやスピーカーから音が出ることを確認します。Bluetooth対応機器からの入力音量は、本機の[AUDIO]スライダーで調節します。

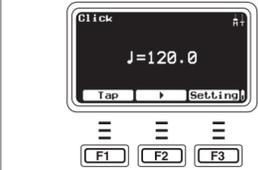


■ クリック(メトロノーム)を使う

クリック(メトロノーム)のオン、オフ、テンポ、音量を設定します。

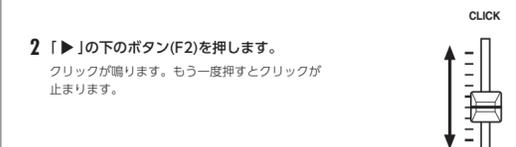
• クリックを鳴らす、止める

- [CLICK] ボタンを押します。Click画面になります。



- [▶]の下のボタン(F2)を押します。

クリックが鳴ります。もう一度押すとクリックが止まります。



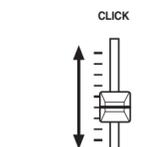
• テンポを変える

[-][+]ノブを回します。



• クリックの音量を調節する

[CLICK]のスライダーを動かします。



■ シーンを変える

本製品には、マイク音(アコースティックドラム音)およびトリガー音(電子ドラム音)に対するエフェクトなど、様々な設定を「シーン」として多数搭載しています。シーンを切り替えることで音の鳴り方が変わります。また、自分で作ったシーンをユーザーシーンとして保存できます。ユーザーシーンの詳細はユーザーガイド(PDF)をご参照ください。

• シーンを切り替える

- [SCENE] ボタンを押してシーン画面に入ります。
- 画面にシーン番号とシーン名が表示されます。
- [-][+]ノブを回してシーンを切り替えます。

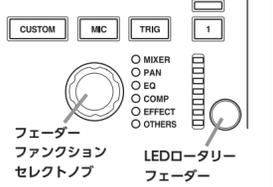


■ 音のバランスを調節する

マイクで拾う音とトリガーの音量バランスを調節します。

- [MIC] ボタンを押します。

- フェーダーファンクションセレクトノブを回して[MIXER]を選択します。
- 画面を見ながらフェーダーファンクションセレクトノブを回してVolumeを表示させます。
- 演奏しながらLEDロータリーフェーダーを回してマイクの音量(Volume)を決めます。
- [TRIG] ボタンを押します。
- 演奏しながらLEDロータリーフェーダーを回してトリガーの音量(Volume)を決めます。
- 上記を繰り返して、マイクとトリガーのバランスをとります。



■ Modifier ノブを使って、音色や音量などを調節する

各ノブにアサインされるパラメーターは、シーンごとに異なります。

• 例) シーンP001 VENUEの各ノブのパラメーター

- Reverb: リバース(残響音)の量
- Master Comp: 音の粒立ち
- Trigger: トリガー音の音量
- Mic EQ Color: マイク音声の明るさ
- Tuning: トリガー音のピッチ
- Distortion: 音の歪み

ご注意

パラメーターを調節後、保存(ストア)しないでシーンを切り替えると、調節した内容は失われます。調節したパラメーターをユーザーシーンとして保存するには、[STORE]ボタンを押して[ENTER]ボタンで確定します。詳しくはユーザーガイドをご覧ください。

■ 自分の演奏を録音する

本機に自分の演奏を録音することができます。[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子やBluetoothから入力される曲と同時に録音すると、曲に自分の演奏を重ねて録音できます。

• 録音する

- [RECORDER] ボタンを押します。Recorder画面になります。
- [●]の下のボタン(F1)を押して、録音を開始します。録音中は録音経過時間(分:秒)が画面に表示されます。
- 演奏します。
- 演奏を終えたら[■]の下のボタン(F1)を押して録音を終了します。

• 再生する

- [▶]の下のボタン(F2)を押して、再生を始めます。曲が録音されていない時は「▶」は表示されません。再生中は再生経過時間(分:秒)が画面に表示されます。
- 再生を止めるときは[■]の下のボタン(F2)を押します。

